

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 相生市

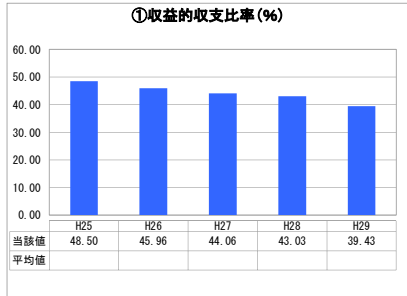
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	1.86	100.00	2,869

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,107	90.40	333.04
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
557	0.48	1,160.42

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



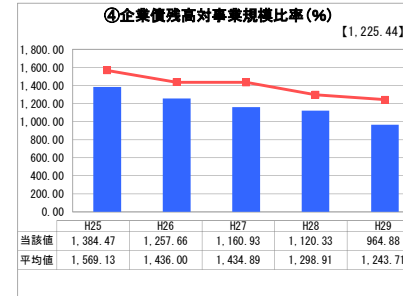
「単年度の収支」



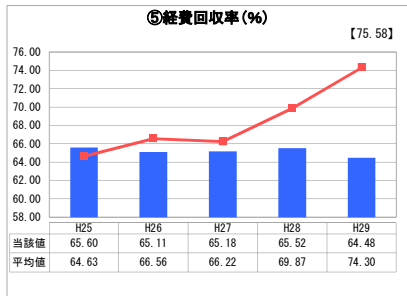
「累積欠損」



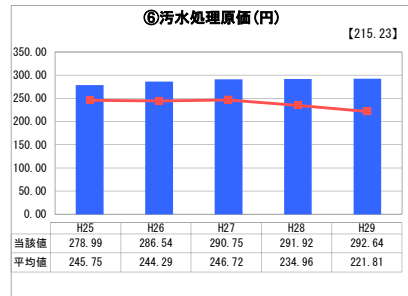
「支払能力」



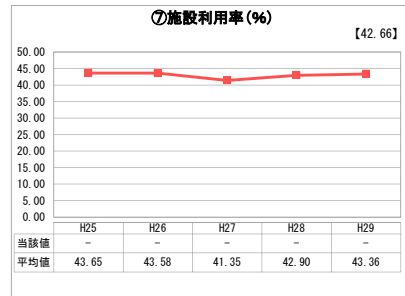
「債務残高」



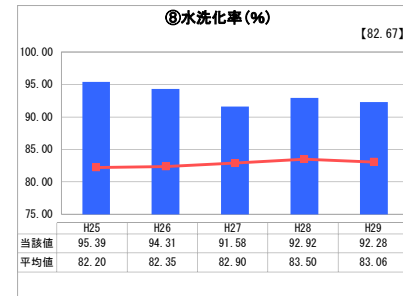
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

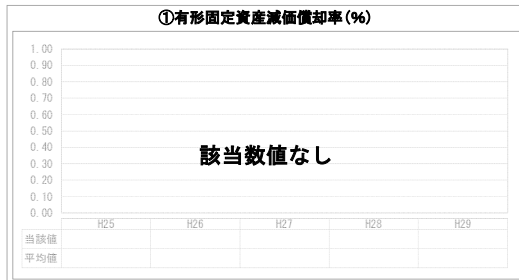


「施設の効率性」

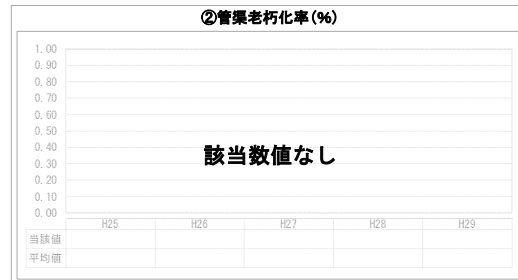


「使用料対象の捕捉」

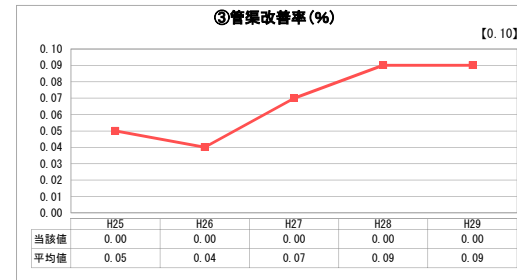
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本事業は事業開始当初から汚水を公共下水道事業の処理場で処理することで、事業の効率性を高め、経費の削減を図っている。

しかし、人口減少や節水などにより有収水量は減少傾向にある上、人口が点在する地域への整備となったことから企業価値の費用が大きくなり、現状の使用料収入規模ではカバーできず、収益的収支比率が低くなっている。

また、使用水量の減少を主因とする汚水処理原価の上昇がみられ、経営の効率性が鈍る傾向にあり、現状では一般会計からの繰り入れによる支援が不可欠な状況となっている。

2. 老朽化の状況について

本事業は管渠のみの保有であるが、管渠の耐用年数を勘案すると、現状の経過年数では直ちに老朽化による更新は必要ではないと考えられるため、当面は適正な維持管理を継続していく。

全体総括

水洗化率が92%と概ね普及している状況であり、今後の大幅な利用増は見込めない中、将来の更新費用の確保を含め、使用料体系の検討を含めた経営改善の取り組みを続けていく必要がある。この際には公共下水道事業と一体的に運用している状況からも、両事業一括で検討していく必要があると考えられる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。